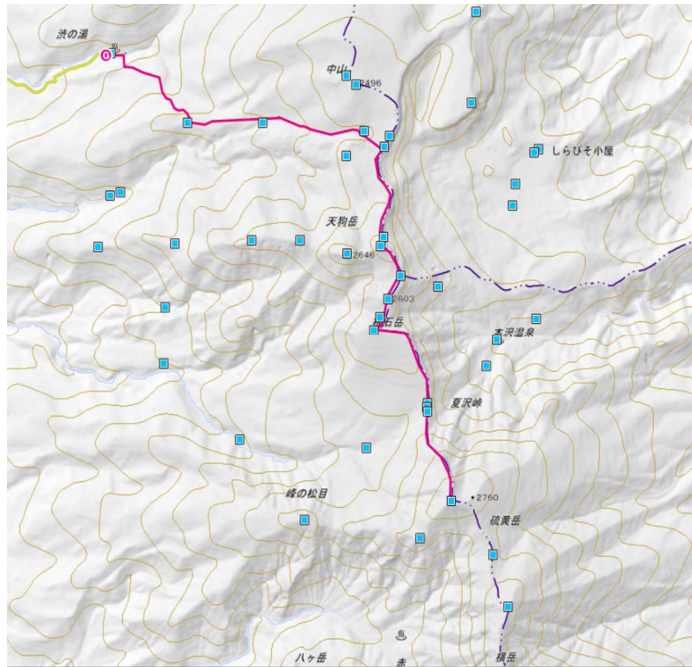


12月度 例会 山行報告書		報告者	方田	参加 メンバー	小田 CL, 館谷 SL, 方田
個人		報告日	12/08		
山域	八ヶ岳	山行日	16年 11月 12日 (土) ~		
山名	天狗岳、硫黄岳、横岳		16年 11月 13日 (日)		
山行目的	16年冬合宿偵察 @12月例会		コースタイム (天候: 天気図記号)		

配布先
集会:12
山行: 1
リーダー
原紙: 集会担当者



0400 刈谷発	0330 起床
0730 渋の湯	0445 出発
1000 黒百合ヒュッテ	0545 夏沢峠
1140 東天狗岳	0720 硫黄岳山荘
1320 本沢温泉	0800 横岳山頂
	1130 東天狗岳
	1530 渋の湯

〈山行報告〉 樹林帯に雪はなく、順調に進む。黒百合ヒュッテには、数日前にふったような雪がうっすら残る。中山峠を右に折れしばらく歩くと森林限界を超え、いよいよ天狗岳核心部へ入る。雪の量は少なくアイゼンの出番は無く、順調に東天狗山頂に到着。クサリ場を急下降し、ゆるい砂場をジグザグに下ると、あっという間に根石岳との鞍部に出る。この急下降が深い雪面だったら、あるいは、凍てついている雪面だったら、まったく、異なっていたらと感ずる。本沢温泉までは、白砂新道を下る。昭文社マップには、“積雪期通行止”とあるが、斜面に雪は少なく、トレースも残るため、温泉への一歩を踏み出す。樹林帯に入ると踏み後が不明瞭になり、赤布も少なく、トップの館谷君がルートを探す。しばらくすると強烈な硫黄の臭いが立ち込めて、小屋が近くにあることを知らせてくれる。本沢温泉には、内湯、外湯があるが、雪上の湯・日本最高処野天風呂の外湯に向かう。一切の囲いのない 白濁色の野天風呂がさりげなくある。お湯は少しぬるめだが、冷えた体にはちょうどええお湯加減だ。沢の音を聞きながら、硫黄岳の爆裂火口を見ながら、こんな極楽はあるだろうか。誰もが味わえる訳ではない、天候、山、メンバに感謝する。夜は、鍋を食しながらひと時の団欒を過ごし、明日に備え早めの就寝。二日目も天気は良好。硫黄岳山頂では、朝日が昇り始め、横岳、赤岳、地藏岳のシルエットが素晴らしいと思う一方で、行く先の横岳の峻険が見えて緊張する。硫黄岳山荘からは右側に大同心を

眺めながら、巻いて行く。いよいよ横岳最高峰の奥の院の悪場に掛かる。左側は絶壁である。積雪期は、ここでザイルが必要だろう。と感ずる。更に鎖場・梯子場を越えて奥の院に続く雪稜を登りきる。山頂に立つと一気に緊張が緩むのであった。硫黄岳から歩いてきた道を振り返りながらホッと一息入れる。ながいしたいが、早々に帰路につく。2日目の行動時間 11hr。なかなかハードな例会だった。

フリースペース
山の紹介・スケッチ・エピソード・その他自由に

確認 (リーダー)
方
16/12/04
田
作成 (報告者)
小
16/12/08
田

〈リーダー所見〉
天気も良く、気持ちの良い中、しっかりと下見をすることができた。横岳のピーク直下は鎖が付けられており危険度は下がっているが、積雪時には注意が必要である。冬合宿に向けてしっかりと準備をしていく。